

青梅市文化財ニュース

第 3 7 3 号

平成 3 0 年 1 1 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859）

てんどくだいはんにや 転読大般若

転読大般若とは、600 巻からなる大般若經典を転読と呼ばれる特殊な作法で、世界平和や無病息災など人々のさまざまな所願を祈願する^{きとうほうよう}祈祷法要です。

日本では密教系の宗派や禅宗が盛んにこの法要を行っていて、青梅でも数カ寺が年に一度ほど、所願を祈る祈祷法要として行っています。

大般若經とは、お釈迦様の教えを含め、大乘仏教の思想を収めたもので、西暦 600 年に唐時代の僧侶、

^{げんじょうさんぞう}玄奘三蔵がインドより膨大なお経を持ち帰り、約 4 年の年月をかけサンスクリットの原文から漢訳し、監修したともされる、600 巻 500 万字に及ぶ最大級の經典です。

玄奘三蔵といえば三蔵法師としての「西遊記」が有名ですね。この物語は、大般若經を含む經典をインドから持ち帰った玄奘三蔵の史実をモチーフにしたフィクションではありますが、物語のような大冒険があったにしろなかったにしろ、交通もままならず、現代では治療可能な怪我や病気で命を落とす過酷な時代、人々のため、信仰のため、まさに命がけで經典を持ち帰った玄奘三蔵の思いを想像するだけで、ありがたいという気持ち湧いてきますね。

法要に関して言えば、西暦 700 年代に^{だいはんにやほうえ}「大般若法会」と称して、藤原京において天皇の命により盛んに行われるようになり、その後、広く全国の寺院に広まっていったようです。法要は当初、600 巻を多くの僧侶が膨大な時間をかけて端から端まで読む作法「真読-しんどく-」が主流だったようですが、時を経て一般の寺院へ広がり、經本が現在のような形になると、短い時間に少人数で略して読み、經典の功德を広範囲に広めるという意味をこめて、經本から風が出るように左右前後に振る「転読」という作法が広く普及していったようです。



大般若經本



転読の様子

この「転読」という作法も各宗派によって少しずつ違いはありますが、4月に奈良の東大寺で行われる千僧法要は、様々な宗派の僧侶が大仏殿に集結し、毎年持ち回りに近い形で各宗派が主体となり、転読大般若法要を行っています。この時に用いる大般若の経本は近年奉納されたものですが、個人の方が長い年月をかけて 600 巻を写経したものを東大寺に寄贈奉納したものだそうです。

この大般若経が所願を祈願する祈祷法要に用いられるようになったのは、この経典を持ち、読み、思想を理解し広めれば私たち自身の災いを除き、功德を得るといった経典の一説に基づくからです。

法要の際、上記の一説を説いたとされる十六善神の掛軸などのお姿をお祀りします。お釈迦さまと仏教世界の守護神である十二神将、四天王からなる仏様たちです。十六善神が大般若経をもたらしたともされており、右図の掛軸を見ると右下に玄奘三蔵のお姿も見られます。大般若経を伝えた史実より玄奘三蔵のお姿を一緒にお祀りする様式もあります。

青梅の大般若法要を行う寺院は、檀信徒の所願を祈願することが主体ですが、法要自体は一般に参拝できる法要もあります。機会がありましたら、ぜひご見学ください。

(文責 田中昌典)



釈迦三尊像と十六善神
右下に玄奘三蔵法師
(聞修院 蔵)